

人類に  
奉仕する  
ロータリー

# 帯広西ロータリークラブ 第2168回例会 2017.2.2 会報



■RI第2500地区テーマ■

ロータリーのあしたのために、  
積極的に行動しよう

■クラブ・テーマ■

ロータリーを分かち合おう

## ゲスト紹介

古田敦則 会長  
独立行政法人国際協力機構 北海道国際センター(帯広)  
代表 遠藤浩昭 様

2月結婚祝・誕生祝は千葉清孝会員ご逝去のため、  
2月第3例会に繰延べ。

## 追悼の言葉

既にご承知おきの通り、去る1月25日千葉清孝会員が亡くなりました。葬儀にあたりましてはたくさんの会員の方々にご焼香いただきありがとうございました。弔辞でも申し上げたのですが、千葉さんと最後にお会いしたのは、昨年七月の新年度最初の例会でした。久しぶりに出席された千葉さんより、「病気療養のため、クラブに迷惑をかけないよう出席免除の手続きをとってほしい」との申し出を受けました。千葉さんらしい心遣いに感謝しつつ、少し寝たお姿を拝見し、「じっくり療養され、またお元気なお姿で例会に出てきて下さい」とお声がけをさせていただきました。結果として、それが千葉さんとの最後の会話になってしまいました。あの優しい笑顔をもう例会場で拝見できない事を考えると、本当に心が痛み残念でなりません。千葉さんは、平成三年に当クラブに入会され、平成十九年には副会長を務められるなど、長年にわたり多くの重責を担われ、クラブの発展と地域の奉仕のために多大なご貢献をいただきました。共にロータリーをわかちあった仲間を失うのは、本当に身を切るような辛さを感じますが、改めて皆様と共にご冥福をお祈りして、川田会員に献杯をしていただきたいと思います。



古田敦則 会長

## 献杯

川田章博 会員  
会長から説明がありましたが、私は先週タイのチェンマイにおりまして、その時に小野親睦委員長から電話があり本日の例会で結婚祝・誕生祝の乾杯の依頼があったのですが、今日は御祝という気分ではなかったので古田会長にお願いして献杯とさせていただきました。千葉さんは昭和21年の生まれですから、ちょうど70歳ですけれども、まだお若いのにご逝去なさってたいへん残念だと思っています。たまたま今日、息子さんが葬儀のお礼に会社にいらっしゃいました。千葉さんは2年ほど前に胃潰瘍で入院なさったことがあるのですが、その時には癌らしいものがみつからなかったそうです。しかし癌が潜伏していたのでしょうか。癌が見つかった時には背骨に転移していたということでございます。最後はやすらかに眠りになられたということでしたが、残念なことだと思います。古田会長がおっしゃいましたが、千葉さんの思い出を胸に刻みながら皆さんと一緒に献杯をさせていただきたいと思っています。献杯。



川田章博 会員

## 会長報告

古田敦則 会長  
さて、来週は国際奉仕に関わる合同例会となりますが、これは2月が「平和と紛争予防／紛争解決月間」になっていること事に因んでおります。ロータリーは、若者を対象とした研修や、紛争地域の平和活動支援、紛争予防・解決のための専門職業人育成の奨学金支援などを行っております。帯広でも第5旅団の南スーダンへのPKO派遣が決まり、安全保障関連法に基づいて駆け付け警護等がその任務になるなど、私たち地方に住む者にとってもこれらの問題が無縁ではない状況になりつつあります。国際紛争が



会長 古田 敦則 副会長 江口 文隆 会場監督理事 森 房明 発行：広報委員会  
幹事 谷脇 正人 副会長 山本 範之 プログラム委員理事 河合 敏 委員長 伊東 肇 (副)辻田 茂生



例会日/木曜日 12時30分～13時30分 例会場/北海道ホテル 帯広市西7条南19丁目1 (TEL 21-0001)  
創立/1972年2月24日 事務局/帯広経済センタービル4階 TEL 25-7347 (直通) FAX 28-6033

複雑化し拡散する中で、私たち民間レベルで何ができるかを、ロータリーを通じて考える事も重要かと思えます。

来週週末にはゴルフ同好会が宮古島に遠征にいかれるということですが、今回はたくさんの方が参加されると聞いています。私は自慢じゃありませんが、20年近くロータリーにいて初めて遠征に参加いたします。同好会会長に強くお誘いを受けまして、私としてはシーズンオフで三か月間クラブをまったく握らないでゴルフをするとどうなるかまったくわかりませんが、かといってこの寒中練習をする気にもなれませんので、ぶっつけ本番で頑張りたいと思います。宮古島はたいへん遠いですから、皆さん気をつけていっていただききたいと思います。

併せてその流れで谷脇幹事におつきあいいただき、高松ロータリークラブにも行ってまいります。去年の災害義援金のお礼ということで今回は例会だけの参加になりますが、高松ロータリークラブは8月に80周年を迎えます。私、石原次年度会長と萱場次年度幹事が張り切っているということを高松にきちんとお伝えして露払いをしてきたいと思いますので、お二人はしっかり覚悟してお待ちいただきたいと思えます。

もう2月になります。大友前年度会長は1月になったら早いよと言っておられましたが、本当にそんな感じがいたします。ころころ転がっているうちに私の年度も終わってしまうのかと思いますけれども、気を緩めないように頑張っていきますので、これからもよろしくお願いいたします。

## 会務報告

### ①帯広5RC・芽室RC・音更RC、

7RC合同例会開催のご案内

日 時 2月7日(火)

午後0時 会食

午後0時30分～1時30分 例会

場 所 ホテル日航ノースランド帯広

講 師 山分ネルソン祥興 様

演題「元米山奨学生が見た、

希望の花を咲かせる国、日本」

※尚、帯広南RC、2月6日(月)の繰下げ例会と致します。

帯広RC、2月8日(水)の繰上げ例会と致します。

帯広西RC、2月9日(木)の繰上げ例会と致します。

帯広北RC、2月10日(金)の繰上げ例会と致します。

### 谷脇正人 幹事



### ②帯広西RC、創立記念例会開催のご案内(夜間例会)

日 時 2月23日(木)午後6時30分

場 所 北海道ホテル

### ③帯広北RC、創立記念例会開催のご案内(夜間例会)

日 時 2月24日(金)午後6時30分

場 所 ホテル日航ノースランド帯広

### ④帯広東RC、夜間移動例会開催のご案内

日 時 2月28日(火)午後6時30分

場 所 幕別パークホテル悠湯館

### ⑤例会終了後、定例理事会を開催致します。

## ニコニコ献金 親睦活動委員会 小野辰夫 委員長

### 古田 敦則 会長

いよいよ2月になりました。残り5か月、気を緩めず頑張りますので、皆様よろしくお願ひします。



### 天野 清一 委員長

先日の会員増強委員会の移動例会、多数の参加ありがとうございました。まさかの松本会員の急遽の欠席でびっくりしましたが、無事終わることができました。本当にありがとうございました。まだまだ多数の新入会員募集していきます。

### 堂山 啓太 委員長

国際奉仕委員会担当例会です。よろしくお願ひします。

### 川田 章博 会員

会議所の用事で太田会員・大友会員・森会員とともにタイのチェンマイに行っていました。

### 森 房明 会員

先週、チェンマイへ会議所使節団の一員として行って貴重な経験をさせていただきました。ありえない事象も発生しましたので、これについては飲み会の席でお話しします。

### 菊池 俊博 会員

先日、日光でアイスホッケーのインターハイがありました。白樺学園、惜しくも準優勝でした。

来年は必ず優勝します。

### 立崎 貴之 会員

先日、風邪を引いてしまい、せっかくご準備いただきました新入会員歓迎会を欠席してしまいたいへん申し訳ありませんでした。





今回、川田会員からお願いして遠藤代表に講話をしていただくことになりました。遠藤代表の経歴を紹介いたします。昭和40年 埼玉県生まれ。平成2年 国際協力機構入構。地球環境にかかる部署を中心にウルグアイ・パナマ・ブラジルで勤務。自宅は横浜で奥様と一人の息子さん、愛犬を残し単身赴任中。十勝帯広の自然文化に関心があり、週末は十勝を巡るのが趣味とのことでございます。

## 「地方創生と国際協力Win-Winを目指して」

独立行政法人国際協力機構 北海道国際センター(帯広)代表 遠藤 浩昭 様



只今ご紹介にあずかりました遠藤でございます。今日は川田さんからお話をいただいて快くお引き受けいたしました。先週、川田さんたちとタイへ行って、私だけインドへ向かい、昨日飛行機が遅れないかとひやひやしながら帰ってまいりました。

私は今年の3月ブラジルから帰国しまして、ブラジルでは190万人の日系人社会を通じたブラジルへの支援が担当でした。JICAは海外に100か所近くの事務所があり、国内にも15か所あります。北海道には

札幌と帯広があり、帯広は道東4管区を担当しています。北海道と沖縄はJICA職員の中でも人気が高く、私はブラジルから帯広に来られて非常にありがたいと思っています。

帯広のJICAは1996年の設立から昨年で20周年を迎え、地域と強い関係を築けないところもあるやに聞いておりますが、帯広では常日頃から道東の皆様と一緒に事業をさせていただいています。

設立当初は海外からの研修員の受け入れを行ってききましたが、2000年ぐらいには市民参加、2012年には民間企業の皆様にも参加していただくとなり、現在のJICAの事業に至っています。

着任してからは地方創生という言葉がシャワーのように浴びせられていますが、我々の事業はあくまで途上国の支援です。しかし、日本の協力はほとんど地方の協力によって途上国の問題を解決していくところがあり、またそのことが地方創生・地方への貢献にもつながると考えて事業を行っています。では今から簡単にご紹介してまいります。

研修員はJICA帯広で毎年400人くらいを受け入れています、全国で1万人くらいの研修員がきますが、その中でなぜ帯広道東なのかといえば秀でた農業・畜産・自然環境があるからです。あるいは地域の大学と理科教育の研修をするなど様々なことをやっています。

研修事業というのは以前はトレーニング・プログラムと読んでいたのですが、受け入れる方もいろいろな発見や知識を共有しようという意味で、最近ではナレッジ・コクリエーション・プログラムと呼び、日本の地域の国際化が活性化につながると考えています。

たとえば十勝の振興局が研修員に牛肉の食べ比べをしてもらったり、ある町では研修員に観光地を歩いてもらったりして、その意見をインバウンドのマーケティングの参考にするとということをやっています。また、研修員が農場・牧場・食品加工場に来るとということがひとつのステータスにもなっているという話も聞くにおよんでありがたく思い、ぜひ活用をしていただきたいと思います。

もともとODAというのは日本国と相手国の約束に基づいて事業を行うのですが、規模が大きく、途上国の地方の人たちに届きにくいというケースがあります。そうしたとき、日本と途上国の地方自治体・大学・NGOな

どが互いに協力して草の根レベルの協力をしましょうというのが草の根技術協力です。この中にはパートナー型（5年間で1億円）・支援型（3年間で1千万円）・地域提案型（別称地方創生枠、3年間で3千万）という枠組みがあります。地域提案型にはフードバレー十勝の草の根案件があります。これは十勝とタイ（チェンマイ）・マレーシア（ケダ州）が組み合わさったプロジェクトで、地域のブランド化と海外展開でお互いがWIN-WINになったことで始まりました。

中小企業海外展開事業とはその名の通りなのですが、JETROなどがあるのになぜJICAが海外展開支援をするのか。我々はあくまで途上国の問題を解決することが任務なのですが、独力ではできないことは民間企業に提案してもらいます。その上で解決できそうなら採択となりプロジェクトを始めます。JICAと組む強みは予算が出るということです。委託事業ですから現地での調査から予算がつかます。もうひとつはネームバリューです。JICAはネームバリューが高く、JICAと組むことで相手国の公的機関も門戸を開くという強みがあります。インドでは東洋農機さんがジャガイモの収穫機のデモンストレーションを行い、非常に好評でした。ただ、どうしても価格が高く、費用的な折り合いをどうつけるかが課題となっています。

ボランティア事業は青年海外協力隊のほかに民間連携ボランティアというものがあります。これについては修羅場をくぐったグローバル展開に貢献する社員を育てたいという理由で活用する方もいらっしゃいますし、ソーシャルイノベーションを生みだすことを期待する声も聴いています。

その他、帰国協力隊による出前講座。研修員の学校訪問、学校の先生を短期間途上国に送るなどの国際理解支援事業も行っており、そういった方々2000人くらいが参加しています。

我々は地方創生に際してこのような事業を行いながら途上国と地方のWIN-WINを目指しております。たとえば帯広市の総合戦略について我々がどのようなスキームで対応できるのかを考えた場合、ほとんどが我々のスキームでお手伝いできることだと思います。

我々は道東・帯広・十勝の皆様と一緒に途上国の課題解決を目指しておりますので、ぜひご協力・ご支援を賜ればと思っております。

本日はどうもありがとうございました。

草の根技術協力

**jica 2 (1) 草の根技術協力事業**

**目的：**  
 ①市民の力による開発への貢献が質・量ともに拡大する。  
 ②途上国や日本の地域の課題解決への理解・参加が促進される。

	草の根パートナー型	草の根協力支援型	地域提案型（地域活性化特別枠）
規模の上限	1億円	1千万円	3千万円*
期間の上限	5年間	3年間	3年間
対象団体	開発途上国・地域への交流活動経験が2年以上有する団体（NGO、大学、民間企業含む） ※	国内外での活動実績を2年以上有する団体（NGO、大学、任意団体含む）	提案は地方自治体 *実施は地方自治体が指定する団体でも可能
募集時期	年2回	年2回 (平成27年度は1回のみ)	年1回

\*地域活性化特別枠、従来の「地域提案型」スキームに準じて、補正予算が認められ、規模上限が6千万円に拡大されている。  
Japan International Cooperation Agency

中小企業

**2 (2) 中小企業海外展開支援事業**  
企業の海外への思いをサポート

```

            graph TD
            A[開発課題を解決したい途上国政府機関] --> B[開発課題の解決に向け、WIN-WINの事業を展開]
            B --> C[海外展開したい中小企業]
            D[支援事業の実施] --> B
            E[JICA] --> D
            
```

基礎調査	案件化調査	普及・実証事業
途上国への進出に向けて、現地での事業展開に必要な基礎情報の収集等を支援。	途上国の課題解決に向けて中小企業が持つ製品・技術が活用できるかどうか、可能性を確認するための調査を支援。	途上国の課題解決に向けて中小企業が持つ製品・技術の本格的な海外進出・導入に向けての実証事業を支援。